

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

一人ひとりの長所を伸ばし、「考動力」のある生徒、違いを認め合える豊かな人間性を持った生徒を育成する  
各々が充実した学校生活をおくの中で、将来の目標を見つけ、自らの果たすべき社会的な役割を自覚できるようにする

- 1 生徒の可能性を広げ、希望する進路の実現を図れる学校
- 2 一人ひとりに個性を生かした活躍の場があり、互いに尊重し合える学校
- 3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り、地域から信頼され、愛される学校

## 2 中期的目標

## 1 学力の向上と希望進路の実現

## (1) 確かな学力の定着と授業力の向上

- ア 教員間の授業公開や研究、生徒による授業評価等を活かし、授業力向上に取り組む
- イ 基礎学力の定着度を測り、全教科で学習内容や方法を基礎的事項の確実な定着を図る
- ウ 生徒が思考を深めたり、積極的に発表したりする機会を増やし、論理的思考や判断力、表現力等を育む

## (2) 一人ひとりに応じた指導の実施と特色ある教育課程の充実

- ア 自主的学習を支援し、家庭学習習慣の定着、学習意欲と学力の向上をめざす  
※ 学校教育自己診断「家庭学習への取り組み」R7年度に生徒75%以上（R2：62%、R3：66%、R4：68%）、保護者70%以上（R2：59%、R3：62%、R4：57%）をめざす
- イ 進学講習、授業の補習等を組織的・計画的に実施する
- ウ アクティブ専門コース（音楽・スポーツ）の充実により、学習意欲や自己肯定感、リーダーシップ等の育成を多角的に図る。  
※ 音楽コースでは、R3年度に獲得した学校経営推進費で設備・授業内容の充実を図っており、R7年度に授業アンケート95%以上、コース選択者20人以上を維持するほか、授業課題として作曲した曲を全国コンクールに提出して入選をめざす
- エ 図書室・自習室の利用促進を図る

## (3) GIGAスクール構想への対応

- ア 1人1台端末や新たに整備されたICT機器等を用いて、生徒の理解がより深化するような授業づくりを研究・実践する  
※ 学校教育自己診断「ICT機器を効果的に活用」生徒、教員ともR7年度90%以上（生徒R3：78%、R4：80%、教員R3：73%、R4：84%）
- イ 情報委員会等を中心に研修などを計画的に実施し、効果的なICT活用に向けてスキルの底上げや情報共有を図る

## (4) 3年間を見通したキャリア教育と進路指導

- ア 生徒が自分にふさわしい進路目標を立て、積極的に挑戦し、粘り強く取り組み、実現させることができるよう、進路指導部・学年等を中心に指導・支援する  
※ R7年度の国公立大・関関同立の現役合格者計50人以上（R2：40人、R3：31人、R4：36人）をめざす

## 2 豊かでたくましい人間性の育成

## (1) 部活動や学校行事等の充実

- ア 学業との両立を促し、より強い達成感や充実感が得られるようにする
- イ 生徒会等を中心に行事の企画・運営を行うことによって自治意識を高め、協働する力、困難を乗り越える力等を経験させる

## (2) 基本的な生活習慣の改善・定着

- ア 挨拶や時間厳守、交通マナー、事故防止などの指導を通じ、意識向上と基本的な生活習慣の確立を図る

## (3) 国際交流活動等の再開

- ア 海外研修等交流活動（オンラインも含む）を通して、SDGsを意識したり、多様な文化を体験したりして視野を広げる

## (4) 人権や多様性の尊重

- ア 授業・HR活動等を通して、他者を理解し尊重する心や態度を養う
- イ 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、保護者や関係機関等との連携を密にすることによって、相談しやすく、安心・安全な環境を確保する

## 3 開かれた学校づくりと組織力・教員力の向上

## (1) 地域等との連携

- ア 部活動や生徒会活動等を通して、地域連携活動を推進する
- イ 探究や部活動などを通じて大学等外部団体や外部人材との連携・協働を進める

## (2) 広報活動のさらなる充実

- ア HP更新や学校見学会、中学校訪問等で魅力発信の強化に努める
- イ 学校ブログやメール配信などを活用し、保護者との情報共有を促進する

## (3) 人材育成の取り組み

- ア 「香里会（新任・若手を対象にした研修チーム）」等を通し、経験の少ない教員の育成に力を入れる

## (4) 働き方改革の推進

- ア プロジェクト委員会等を中心にさらなる業務の精選と組織の再構築を図り、生産性の高い職場をめざす
- イ 校内の課題の共有化を図り、解決に向けて教職員が一丸となれる環境をつくる  
※ 時間外勤務が月間80時間以上の教員の年間延べ人数をR7年度までに10人以下（R2：39人、R3：23人、R4：30人）をめざす

## (5) 施設・設備の充実と美化

- ア 生徒・教職員等が快適で効率良く学校生活を過ごせるよう、設備・備品の更新や修理改修、整備に務める
- イ 生徒の美化意識の向上と、生徒主体の美化活動の充実を促し、快適な環境を保つ

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b>            ほぼすべての項目で前年度との変化は小さい。            各質問での肯定回答は、「文化祭や体育祭などの行事が盛んで、楽しく参加している」97%、「部活動や行事と勉強の両立を心掛け実行している生徒が多い」88%、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」91%、「平和や人権について学ぶ機会がある」90%。            一方で「授業や定期考査に備えて、予習・復習・宿題など家庭学習を十分行っている」67%、「主体的に勉強に励むことのできる、やる気と実行力がある」61%など、学習意欲に関しては肯定率が低くなっている。            学校全体で改善に取り組むべき課題であると考えられる。</p> <p><b>【保護者】</b>            昨年度から肯定率が大きく上昇したのは、「授業参観や行事に参加したことがある」18ポイント上昇、「こどもは学校の様子をよく話す」10ポイント上昇など。生徒と保護者の間で円滑なコミュニケーションがとれている様子がうかがえる。            一方で、肯定回答率が下がった項目は36項目中21項目あった。            生徒のアンケートでは文武両道を心掛けているとする回答が多かったが、保護者からは「学習・部活動・行事などのバランスがとれた教育活動を行っている」85%（前年度比6ポイント減）、「子どもは、勉強と部活動の両立を心掛け実行している」64%（同4ポイント減）など、生徒と保護者でとらえ方の違いがみられる。部活と勉強の両立については今後、保護者との連携も鍵になってくると考える。</p> <p><b>【教員アンケート】</b>            肯定回答率が前年度より下がった項目が、45項目中36項目あった。特に15ポイント以上下がった項目が10項目ある。「授業力や教科指導力の向上について、教職員の間で日常的な話し合いがもたれている」62%（前年度比25ポイント減）、「教職員の間で、授業方法等について研究する機会を設けている」58%（同24ポイント減）など。            これらは、教職員減による多忙化で授業改善等に時間を割くことが難しくなっている状況を反映しているとみられる。業務の見直し等により、早急な改善が必要である。</p>	<p><b>【第1回】 令和5年7月7日（金）〈学校経営計画、教科書選定〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 探究活動において、大学と連携するだけでなく、企業と連携してみてもどうか。クエストエデュケーションなどを取り入れることで、生徒も達成感をより感じるができるのではないか。</li> <li>● アクティブコースに入った生徒の進学状況はどうか。</li> </ul> <p><b>【第2回】 令和5年11月8日（水）〈授業見学ののち、運営協議会を実施〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アクティブコースに関して、高校入学前からコースを選択している生徒が多いのか、高校入学後に先輩や同級生の影響を受けてコースを選択する生徒が多いのか。</li> <li>● 進路行事の一環として行っている、龍谷大学見学会については、見学先を何校かに分けて、一人ひとりの希望に沿った大学を見学するといった方法をとっても良いのではないか。</li> </ul> <p><b>【第3回】 令和6年1月26日（金）〈学校教育自己診断、学校評価案、学校経営計画案〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己診断への保護者の回答率が低い。回答率を上げる工夫が必要ではないか。また、質問項目を少し整理した方が良い。</li> <li>● 探究の評価用のルーブリック評価を作成していることについて、生徒に示すことで、どんな能力を身につけるのかを意識でき、妥当だと思われる。小中でどのような評価をしていたか、生徒に聞いてみるのも良いのではないか。</li> <li>● その他質疑応答</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 教育力の向上と希望進路の実現	(1) 確かな学力の定着と授業力の向上	<p>ア 各教科で研究授業等を積極的に実施し、「生徒が主体性を持って学び、理解できる授業」をめざす組織的な授業改善の取組みの活性化</p> <p>イ 学力生活実態調査で基礎学力の定着度を測り、各教科で学習内容や方法の検討・改善を行う</p> <p>ウ 授業の中で自分の考えを深めたり、まとめて表現したりするような時間を設け、思考力・判断力・表現力等を培う            特に「総合的な探究の時間」では、情報収集・目標設定・討論・調査・まとめ・発表の一連の活動を通し、これらの力を育成する</p>	<p>ア 学校教育自己診断（生徒）「授業は適切で分かりやすい」85%以上維持[86%] 授業改善の取り組み状況</p> <p>イ 1年、2年の学力生活実態調査のGTZ「B」定着[1年：B3、2年C1]</p> <p>ウ 学校教育自己診断「授業の工夫」85%以上 [83%] 「探究」活動の生徒アンケート満足度 80%以上を維持 [1年：90.0%、2年：86.4%、3年：84.7%]</p>	<p>ア 「授業の内容や進度は適切で、わかりやすい」（生徒）85%(○)            研究授業は各教科で年3回実施            国社数理各3回、英2回、芸家体各1回実施</p> <p>イ 1年GTZ：B3、2年GTZ：B3（○）</p> <p>ウ 「生徒が意欲的に取り組むよう、授業の工夫をしている先生が多い」（生徒）84%(△)            「探究」アンケート満足度は1年：90.3%、2年：97%、3年：87.9%、(◎)            1年生は、昨年度作成した探究カリキュラムに基づき、授業を進めている            各学年の担当者が、探究委員会で取り組みの振り返りや情報交換などを行い、指導方法について研究を続けている。また、次年度から活動が一層の活発になるよう、「評価」のあり方も見直している            2年生は今年度、枚方市役所と連携し、地域探究への道を示してもらった。1年生の探究では関西大学教授や大学生に運営に協力してもらった。</p>

## 府立香里丘高等学校

	(2) 一人ひとりに応じた指導の実施と特色ある教育課程の充実	<p>ア WEB予備校や授業外の学習指導活用を促し、自主的な学習、家庭学習充実への取組みを支援する また、入学直後に高校生活や学習法について説明する学習オリエンテーションをさらに充実させる</p> <p>イ 生徒のニーズに応じた進学講習、補習等を計画的に実施し、主体的に学び続ける姿勢を身につけさせ、学力向上・定着をめざす。 国公立や難関私大をめざす「アドバンスクラス」の来年度開講に向けた環境整備や支援も継続する</p> <p>ウ アクティブ専門コースがより生徒のニーズに応える魅力的なものになるよう、高大連携等を活用して授業の充実・深化をめざす</p> <p>エ 図書室・自習室の利用を促す。特に読解力・文章力など学習の基礎となる力を養うため、読書の習慣づけを促す</p>	<p>ア 学校教育自己診断「家庭学習への取組み」(生徒)70%以上[68%](保護者)60%以上[57%] WEB予備校参加者数90人以上維持[92人]</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒)「進路実現のための学習支援が充実」90%以上[88%] (教員)「学習到達度の低い生徒への指導が行われている」65%以上[64%] 「みらいG」参加者20人以上[13人&lt;1年生のみ&gt;]</p> <p>ウ アクティブコースの次年度選択者数計60人以上維持[69人]</p> <p>エ 図書室の貸出冊数を維持[1074冊]</p>	<p>ア 学校教育自己診断「家庭学習への取組み」(生徒)68%、(保護者)58%(△) Web予備校参加者数76人(△)</p> <p>イ 「進路実現のための学習支援が充実」(生徒)肯定91%(○) 「学習到達度の低い生徒に対する指導」(教員)56% 「学習意欲の高い生徒に対する取組」(教員)肯定53% 「みらいG」は、支援内容見直し・改善などのため、今年度は募集せず(△) その他、夏期講習1年:英国数 2年:英国数 3年:英国数社理。冬期講習1年:英国数 2年:英国数 3年:国。特に1年生数学に関しては、オンライン配信など積極的におこなった。</p> <p>ウ アクティブ専門コース現時点での希望者数計66名(スポーツ49、音楽、17)(○)</p> <p>エ 1386冊(◎)</p>
	(3) GIGAスクール構想への対応	<p>ア ICT(特にリーディングGIGAハイスクール事業で新たに獲得したプロジェクター等)や1人1台端末を活用した協働的な学びへの支援を推進し、生徒の集中力を高め、より効果的な授業につなげる</p> <p>イ 教育センターの研修等を活用するほか、教員同士の相互授業見学等を通して、ICT活用方法を含めた生徒の能力を伸ばすアイデアの共有を図る</p>	<p>ア 学校教育自己診断「ICT機器を効果的に活用」生徒・教員とも85%以上[(生徒)80%、(教員)83%]</p> <p>イ ICTや1人1台端末を活用するための教員研修を年2回以上、研究授業を年2回以上実施</p>	<p>ア 「ICT機器を効果的に活用」(生徒)82%、(教員)89% (生徒△、教員○)</p> <p>イ 4月に1人1台端末活用研修と、ICT機器活用研修を実施 11月にリーディングGIGAハイスクール事業に係る公開(研究)授業を2回実施 2月に新プロジェクター活用研修を実施予定(○)</p>
	(4) 3年間を見通したキャリア教育と進路指導	<p>ア 「学力生活実態調査」の活用、大学見学会、進路情報の提供等を通じ、キャリア意識の向上を図る また、生徒が目標とする進路をめざして粘り強く取り組めるよう、多角的に支援する</p>	<p>ア 学校教育自己診断「進路選択のための情報提供」80%以上維持[83%] 「将来の進路や生き方について考えることができる」90%以上[89%] 国公立大・関関同立現役合格者計35人[36人]</p>	<p>ア 「進路選択のための情報提供」(生徒)85%(○) 「将来の進路や生き方について考えることができる」(生徒)88%(△) 国公立・関関同立現役合格者計19人(△)</p>
2 豊かでたくましい人間性の育成	(1) 部活動や学校行事等の充実	<p>ア 部活動内での学習支援の充実 行事や部活動の終了時間の徹底やノークラブデーの完全実施等により、学習との切り替えを促す</p> <p>イ 生徒のリーダーシップ養成のため、体育祭・文化祭等の学校行事を企画・立案する機会を増やす 「香里を考えるHR」等を通じ、積極的に学校生活の充実に取り組むよう促す</p>	<p>ア 学校教育自己診断「学習・部活動・行事の両立」(生徒)90%以上[88%]、(保護者)70%以上[68%]</p> <p>イ 学校教育自己診断「生徒会活動は活発」88%以上[88%] 「行事は、生徒を中心に組織的・効率的に運営」95%以上維持[96%] 生徒からの学校生活改善提言などの具体的な内容・状況の評価</p>	<p>ア 「学習・部活動・行事の両立」(生徒)91%(保護者)64%(生徒○、保護者△)</p> <p>イ 「生徒会活動は活発」(生徒)92%(○) 「行事は、生徒を中心に組織的・効率的に運営」(生徒)97%(○) 「香里を考えるHR」で「制服」「食堂」を取り上げた。特に食堂については、食事スペースの開放を希望する声があり、生徒会と教員有志によって週1回の開放が実現した。 制服も次年度に引き続き、生徒も交えて話し合っていく予定 また、生徒会役員の発案で、海外支援・交流活動も準備中(◎)</p>
(2) 基本的な生活習慣の改善・定着	<p>ア 挨拶や交通マナーなどの指導により、校則の順守と規範意識の向上に取り組む 特に生徒が被害者・加害者にならないよう、自転車のマナー指導を強化する はじめのある生活を定着させるために、時間を守る意識を高める。遅刻者に対しては、生徒指導部・学年等が連携して段階的な指導を行う</p>	<p>ア 遅刻者数を前年度から減らす[717人] 毎登下校時に自転車指導を実施できたか 挨拶や声かけを継続的に実施・指導できたか PTAによる登校指導4回以上を維持[4回]</p>	<p>ア 遅刻者数721人(△) 毎日の登下校当番表を毎月作成し、実施できた 校門当番表も同様に作成し、実施・指導できた(○) PTA登校指導は4回実施(6月8日、9月19日、10月19日、12月18日)(○)</p>	
(3) 国際交流活動等の再開	<p>ア 「国際交流委員会」が中心となり、コロナ禍で中断している海外の生徒らとの本格的な交流(オンライン含む)再開に取り組む。 事情が許せば、生徒の海外研修を実施する</p>	<p>ア 国際交流活動を年2回以上[オンライン3回、対面2回] 海外研修の再開</p>	<p>ア 昨年度実施したような交流活動は実施していないが、初めて長期私費留学生を韓国から受け入れ(上記の通り)生徒会活動の一環として、ウガンダの現地市民団体と連携してスラム街の子どもたちを支援する活動を準備中 近隣の高校と共同で、海外研修を計画中。夏休み中の実施をめざしている(◎)</p>	

## 府立香里丘高等学校

	(4) 人権や多様性の尊重	<p>ア 授業・LHR・各種行事を通じて、人種や国、性別、障がいの有無等にこだわらず、多様性を認め合い共生する姿勢を育てる 生徒・保護者・教職員対象の講演会や研修等の取組みを進める</p> <p>イ 教員が寄り添いの姿勢を持ち、スクールカウンセラーらと協力し、生徒が声を上げやすい環境をつくる。学校生活に困難を伴う生徒については、就学支援委員会で情報を共有。保護者と連携しながら個別の支援計画を作り、充実した支援をめざす</p>	<p>ア 学校教育自己診断「平和や人権について学ぶ機会がある」85%以上 [81%] 教職員・保護者合同の研修会を再開</p> <p>イ 学校教育自己診断「悩みを相談できる先生がいる」60%以上維持 [62%]</p>	<p>ア 「平和や人権について学ぶ機会がある」(生徒) 86% 教職員研修「LGBTQ」を保護者にも開放 (○)</p> <p>イ 「悩みを相談できる先生がいる」(生徒) 65%(○) スクールカウンセラーが年度内で10回来校し、各回で生徒、保護者、教員の相談を受けてもらった。学校生活に困難を伴う生徒が判明するたびに就学支援委員会を開き、さらに職員会議等で情報共有を行った(年度内で6回&lt;書類持ち回り形式の委員会2回含む&gt;) 人権HRや授業において、1年生は「SNS、拉致問題」、2年生は「いじめ」、3年生は「労働者の人権」に取り組んだ。同和問題については2年生「公共」の授業で実施 また、体育祭、文化祭のクラスTシャツのデザインを、人権推進委員会で確認するなどしている。</p>
	(1) 地域等との連携	<p>ア 地域の中学校との運動部交流大会「香里カップ」や、文化交流イベント「香里フェス」を開く また、行事の公開、クリーン・キャンペーンなどで、地域連携の活性化を図る</p> <p>イ アクティブコースと大学(大阪音楽大学など)・専門学校(大阪医療福祉専門学校など)、探究活動と大学(関西大学、大阪工業大学など)などの連携・協働を継続し、豊かな学習環境を提供するよう努める</p>	<p>ア 「香里カップ」「香里フェス」を合わせ、5部以上を維持 [6部] 学校教育自己診断(教員)「地域や小中学校の人々と接する機会がある」60%以上 [64%]</p> <p>イ 連携・協働の継続と新規連携先の開拓</p>	<p>ア 香里フェス(吹奏楽11月11日) 香里カップ(ソフトボール12月17日、サッカー12月24日、ソフトテニス3月24・29日(いずれも雨天中止)、女子バスケ3月29日) 計4部(1部雨天中止のため、○) 「地域や小中学校の人々と接する機会がある」(教員) 69%(○) イ 体育祭・文化祭に地域の人を招待 アクティブコースで大阪医療福祉専門学校や大阪成蹊大、大阪音大などと連携しているほか、探究でも関西大、大阪工業大の協力を得ている。 また、探究では今年度から枚方市役所、地元NPOに協力をお願いしている</p>
3 開かれた学校づくりと組織力・教員力の向上	(2) 広報活動のさらなる充実	<p>ア 総務部を中心に、HPの更新、学校見学会等を通して中学校や地域に情報を発信する 学校説明会等で使う紹介動画等を、さらに魅力あるものにバージョンアップする</p> <p>イ 学校ブログやメール配信等でタイムリーな情報発信に努め、保護者との協力体制の強化を図る</p>	<p>ア 学校見学会の年3回実施を維持 参加者の延べ人数 900人以上維持 [955人] 学校教育自己診断(教員)「中学生やその保護者、地域に向けて情報提供や発信ができています」80%以上 [80%]</p> <p>イ 学校教育自己診断(保護者)「連絡や意思疎通が適切」90%以上 [85%]</p>	<p>イ 学校見学会3回実施(6月10日、11月11日、1月20日) 参加者延べ人数計1071名(◎) 「中学生やその保護者、地域に向けて情報提供や発信ができています」(教員) 78%(△)</p> <p>イ 「連絡や意思疎通が適切」(保護者) 86%(△)</p>
	(3) 人材育成の取り組み	<p>ア 「香里会(新任・若手を対象にした勉強会)」で、経験の少ない教員が自信をもって授業や生徒指導、保護者対応等にあたれるよう、先輩教員が指導。研究授業も実施する</p>	<p>ア 「香里会」年10回以上を維持 [20回] 研究授業の実施回数(初任者:年2回以上、2年目:年1回以上)を維持 参加者アンケート肯定平均95%以上維持 [100%]</p>	<p>ア 香里会20回実施。(1/13現在) 研究授業6回実施 アンケート100%(○)</p>
	(4) 働き方改革の推進	<p>ア プロジェクト委員会を中心に、さらなる業務の精選と組織の再構築を図り、より働きやすく生産性の高い職場をめざす</p> <p>イ ICTを活用するなどして、校内課題の共有化を図り、解決に向けて教職員が一丸となれる環境をつくる</p>	<p>ア 時間外勤務が月間80時間以上の教員の年間延べ人数20人以下 [30人]</p> <p>イ 校内の課題や業務内容の共有、軽減策の具体的な進捗状況</p>	<p>ア 時間外が月80時間以上の教員の年間延べ人数30人(△)</p> <p>イ 学習支援クラウドサービス等を活用し、会議資料等のデジタル化を進めるとともに、教職員を対象とした研修を実施。教職員のICT活用を促した校務処理システムによる出欠管理や成績処理により校務を効率化 また、デジタル採点システム導入で、採点業務の時間が短くなりつつある さらに、次年度開始予定の、生徒・保護者向け連絡システムを現在準備中</p>
	(5) 施設・設備の充実と美化	<p>ア 生徒・教職員等が快適で効率良く学校生活を過ごせるよう、設備・備品の更新や修理改修、整備に務める</p> <p>イ 定期的な大掃除等生徒主体の美化活動に取り組み、物を大切に扱う姿勢や美化意識の向上を促すとともに、快適な学習環境を整える</p>	<p>ア 学校教育自己診断「本校の施設・設備はよく整備されている」生徒・保護者とも生徒・保護者とも75%以上 [(生徒)79%、(保護者)74%]</p> <p>イ 学校教育自己診断「校内美化や衛生管理に努めている」(保護者)80%以上を維持 [88%]</p>	<p>ア 「本校の施設・設備はよく整備されている」(生徒) 86%(保護者) 67%(生徒○、保護者△)</p> <p>イ 「校内美化や衛生管理に努めている」(保護者) 88%(○) 設備・備品の安全点検を年3回実施し、破損箇所に関しては早急に修繕あるいは交換を行った 大掃除は各学期の終業式当日に加え、入学式当日・卒業式前・(高校入試)学力検査前に実施した その他、生徒への美化意識の向上を促す指導・文書掲示を適宜行っている</p>